

CASBEE-建築(新築)2024年版
MFLP京都八幡II新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2024年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.2
Q1 室内環境					0.30		-	3.5
1 音環境				3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	室内騒音レベル	N-45		4.0	0.40	-	-	
1.2	遮音			3.0	0.40	-	-	
1	開口部遮音性能	-		3.0	0.60	-	-	
2	界壁遮音性能	-		3.0	0.40	-	-	
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	-		-	-	-	-	
4	界床遮音性能(重量衝撃源)	-		-	-	-	-	
1.3	吸音	-		3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境				3.2	0.35	-	-	3.2
2.1	室温制御			3.5	0.50	-	-	
1	室温	-		3.0	0.38	-	-	
2	外皮性能	断熱性能の高い建材の採用		5.0	0.25	-	-	
3	ゾーン別制御性	-		3.0	0.38	-	-	
2.2	湿度制御	-		3.0	0.20	-	-	
2.3	空調方式	-		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				4.0	0.25	-	-	4.0
3.1	昼光利用			4.2	0.30	-	-	
1	昼光率	昼光率2.5%以上		5.0	0.60	-	-	
2	方位別開口	-		-	-	-	-	
3	昼光利用設備	-		3.0	0.40	-	-	
3.2	グレア対策			3.0	0.30	-	-	
1	昼光制御	-		3.0	1.00	-	-	
3.3	照度	全般照明方式で、500lx≦照度<1000lx		4.0	0.15	-	-	
3.4	照明制御	1作業単位で照明制御でき、リモコンスイッチで制御ができる		5.0	0.25	-	-	
4 空気質環境				3.5	0.25	-	-	3.5
4.1	発生源対策			4.0	0.50	-	-	
1	化学汚染物質	全面的にF☆☆☆☆の建築材料を使用		4.0	1.00	-	-	
4.2	換気			3.0	0.30	-	-	
1	換気量	換気量:30m ³ /h・人以上		4.0	0.33	-	-	
2	自然換気性能	-		1.0	0.33	-	-	
3	取り入れ外気への配慮	給気口は各種排気口と6m以上離れて設置		4.0	0.33	-	-	
4.3	運用管理			3.0	0.20	-	-	
1	CO ₂ の監視	-		3.0	0.50	-	-	
2	喫煙の制御	-		3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.6
1 機能性				3.6	0.40	-	-	3.6
1.1	機能性・使いやすさ			3.0	0.40	-	-	
1	広さ・収納性	執務スペース≧9m ² /人		4.0	0.33	-	-	
2	高度情報通信設備対応	-		2.0	0.33	-	-	
3	バリアフリー計画	-		3.0	0.33	-	-	
1.2	心理性・快適性			4.6	0.30	-	-	
1	広さ感・景観	天井高:2.9m以上、屋外の情報を得られる窓を設置		5.0	0.33	-	-	
2	リフレッシュスペース	リフレッシュスペース:1%以上、自動販売機を設置		5.0	0.33	-	-	
3	内装計画	インテリアパースによる内装計画		4.0	0.33	-	-	
1.3	維持管理			3.5	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計	防汚性の高い建材の使用等		4.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保	-		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30	-	-	3.2
2.1	耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)	-		3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能	-		3.0	0.20	-	-	
2.2	部品・部材の耐用年数			3.4	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数	-		3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	-		2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:タイルカーペット(20年)、壁:ビニルクロス(20年)		5.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出系統は全てガルバリウムダクトを採用		5.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	給水(SUS:C)、排水(VP:B)、冷媒(CU:C)		4.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	-		3.0	0.20	-	-	
2.4	信頼性			3.8	0.20	-	-	
1	空調・換気設備	-		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	災害時に一時貯蓄可能な汚水槽を計画、井水利用		4.0	0.20	-	-	
3	電気設備	非常用発電機を設置、受電設備の二重化等		5.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	耐震クラスA		4.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	-		3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性		4.1	0.30	-	-	4.1
	3.1 空間のゆとり		5.0	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率<0.1	5.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり	積載荷重:4500N/m ² 以上(地震用割増なし)	4.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性		3.6	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	モジュールトイレを採用	5.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	仕上材、構造部を痛めず更新・修繕が可能	5.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.40	-	-	2.8
1	生物環境の保全と創出	-	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	まちなみに配慮した景観計画	4.0	0.40	-	-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30	-	-	2.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	2.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.9
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	4.1
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.77	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用(直接利用)	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	BEI _m =0.40	4.4	0.50	-	-	4.4
	集合住宅以外の評価		4.4	-	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
4	効率的運用に向けた取組み		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	用途別エネルギー量を把握	4.0	0.40	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	2.0	0.40	-	-	
	4.3 非化石エネルギーの導入の拡大	-	3.0	0.10	-	-	
	4.4 コミッショニングの推進	-	3.0	0.10	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	4.0
1	水資源保護		4.2	0.20	-	-	4.2
	1.1 節水	給水器具の過半に節水機能のあるものを採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		4.4	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	井水利用	5.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		4.2	0.60	-	-	4.2
	2.1 材料使用量の削減	BCP柱、ニューフェローデッキの採用	5.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	リサイクル材を3品目使用	5.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	持続可能な森林から算出された木材を50%以上使用	5.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材の分離が容易、OAフロアの採用	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP<10の発泡系断熱材を採用	4.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.5
1	地球温暖化への配慮	ホールライフカーボン排出率78%	3.8	0.33	-	-	3.8
2	地域環境への配慮		3.5	0.33	-	-	3.5
	2.1 大気汚染防止	燃焼機器の設置なし	5.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	適切な駐輪・駐車スペースを確保	5.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックシート・配慮事項の過半を満足	5.0	0.70	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

6/49